夏越の大祓のご案内

ました。一層の「幸せ」のご縁をお授かりになりますによって心身を清浄にし、新しい半年の幸せを祈願しに来我々の先祖は、毎年六月晦日・年末に「大祓」に茅の輪くぐりの神事を斎行します。六月の晦日、恒例の夏越の大祓(おおはらえ)並び

ようご案内申し上げます。

(大祓の郵送祈祷は送料不要)

斎行日 七月 六月二十七日 四日 (予約不要・どなたでもご参加いただけます) 午午午 後 一 一 後 三 時 時 時

授玉 与串 品料 御神菓(美保岐金平糖)

※疫病除けの茅の輪は六月上旬から九月末頃まで設置※疫病除けの茅の輪は六月上旬から九月末頃まで設置



夏越の大祓とは

事でもありました。 族の中臣氏が司る宮中行 年)に記載され、 時代の「延喜式」 大祓詞(中臣祓)は平安 大祓神事の歴史は古く、 古代豪 (九二七

をもっていたと考えられ おいては重要な意味合い 死が身近であった中世に 神事です。とりわけ生と かにすることを祈念した や災厄を避け心身を清ら や穢れを取り除き、疫病 知らずのうちに犯した罪 人が生きる上で知らず

事となりました。 日本中で行われる伝統行 庶民に広まったとされ、 ぐりの神事が広く江戸の 降はこの六月の梅雨の時 除けを祈願した茅の輪く 期に合わせて疫病・災厄 わけても、江戸時代以

りで製作しております。 当分祠でも毎年欠かさ

を延長してお飾り致しま をご祈念申し上げ、期間 に健全な社会生活の快復 疫病封じ・感染収束並び ず斎行する恒例行事であ 特に本年はいち早くの 大きな茅の輪を手作

> れており、当時より高い み人知らず」として記さ と、 この和歌の起源を遡る

和歌を唱えながら三周ま古式豊かな抑揚で大祓の 職が唱和します。 十分に広がり大祓詞を神 本年は境内(屋外)にて 祓式を執り行いますが、 を終え、例年は殿内で大 わることが作法とされま 茅の輪をくぐる時は、

みます。 けて大祓の神事に取り組 密にならないように六月 ましては飛沫感染防止の 三十日前後に複数日に分 ようご案内致します。過 ご参列の皆様におかれ

にお越し下さい。 の混雑防止の為、 お早め

社頭頒布〔一〇〇〇円〕

ご参列叶わない方は郵便振

ストラップ形根付

[1000円]



第9号

《茅の輪くぐりの作法》

る人はちとせの命のぶと 「みな月の夏越の祓えす

ふなり」

取れます。 寛弘三年(一〇〇六 に「題しらず」「よ 頃編纂の『拾遺和歌

茅の輪くぐりの神事 当日ご参列の方は人形(ひ 【ご来社される場合】 とがた)・車形(くるまがた)

緒に唱えて頂きます マスク着用と心の中

当日参加の方は受付で

お渡しします。人形・車形・

玉串料を封筒に入れてご持

参下さい。

【郵送される場合】

当日ご参加できない方は事

・郵送される場合

【当日不参加の方

一十分前には御参集下さい (予約不要・当日参加可)

前にお預かりの上授与品を

一形・車形の使い方

了和一年十月一十一星

要多

今和元年十月三十星

(ふりがなをつけて下さい) 御家族の氏名 生な

大祓車形記入例

一、人形にそれぞれと氏名年令を記入する。

大被人形。の作法

身体を撫で、息を吹きかける。 きよめたまえ。 と心に唱えながら

して人形を用いてきまし際に、人間の身代わりと 古くより禊や祓をする

をご準備の上、玉串料(三

付までお越し下さい。 千円)を添えて授与所・受

意し、それらを形代(かの際に、人形(ひとがた)・ す。 穢れをうつしお祓いしま たしろ)にして自らの罪 当分祠では夏冬の大祓

吹きかけ、頭から全身気氏名を記入し、息を三回 り、悪い気を取りうつしになる場所を撫でこす てお祓いします。 車形に生年月日・氏名

自家用車、バイク・自転ナンバーを記入し同様に ど忌火でお焚き上げしま わりとしお祓いし、後ほ 当分祠にお納め下さい。 すって罪穢れをお祓い 車などの四方を撫でこ 大祓の神事の際、 身代

たと言われております。

除くという神事になっ

除けの祈りが切々とみて

ことからも当時の人の疫

は疫病から免れられない 様の力に頼っても簡単に ます。物語の中ですら神 め称えたものと考えられ

病に対する恐怖と、疫病

一、車形にそれぞれ運転者と車のナー、車形をもって。はらいたまえ、こ、車形をもって。はらいたまえ、

大破車形。の作法

運転者の氏名

ふりがなをつけて下さい) ら車の周りを撫でる

大祓人形記入例

ている。 風土記逸文」として「蘇 している。諸説あるが一 部兼方によって記された 般に次のように伝えられ 民将来」の逸話が伝存 いる。鎌倉時代中期、 期に編纂》に伝えられて 後国風土記』《和銅六年 『釈日本紀』に、「備後国 (七一三年) 奈良時代初 その答えは神話―

湘南はニーニニ

相模は一一一二二

年後、再び蘇民将来のも 厚く饗しました。その数 だのに対し、兄の蘇民将 将来、巨旦将来 という兄 旅をしている途中、蘇民 とを訪ねた武塔の神は は貧しいながらも喜んで 来(そみんしょうらい) にも関わらず宿泊を拒ん うらい)は裕福であった 弟の巨旦将来(こたんしょ 弟に宿を求めたところ、 武塔(むたふ)の神が、

かったというのです。 蘇民将来は茅の輪で助 伝説のとおり小さなもの ました。茅の輪も当初は のおのかみ)である。も 潜って罪や災い、病を取 でしたが、江戸時代初期 を腰に付けるというもの 貼るという信仰が生まれ 将来」と書いた紙を門に この言い伝えから「蘇民 家族は病に倒れましたが、 行したときに巨旦将来の ました。そして疫病が流 を作り腰につければ病気 があった時には、茅で輪 し悪い病気が流行ること に罹らない」と教えられ 私の名は素盞鳴神(すさ 大きな茅の輪を

人形の紙に生年月日・

なんで茅の輪を かざる?

神話を読み解く

かったという部分は共通に茅の輪をもらって助 れや畏敬の念をもって崇 然のはたらきに対し、 切さも伝えるものです。 クチンのない時代の疫病 とって一度疫病が発生し じます。当時の人々に あっけない結末に得体の る結末ですが、あまりに 免れるだろう」と諭され と名乗れば疫病の難から 去ってしまいます。結び この物語に関わる全ての り、巨旦も蘇民将来も、 は蘇民将来の娘だけであ では、茅の輪を渡された れる備後国風土記の伝承 生観がわかります。諸説 間の力を超えた事象や自 神道の信仰の根源とは人 同時に人の助け合いの大 念さが祈りとなって神話 たことが分かります。 る大変な死活問題であっ てしまえば集落全体が しれない後味の悪さを感 を着けて蘇民将来の子孫 村人が悉く病でこの世を 夜、疫病から助かったの しますが、最も古いとさ 解釈がありますが、神様 読み解くことで当時の に伝えられているのです。 に対する先人の恐れや無 夜で死に絶えることもあ 人々の切迫した祈りや死 て伝えられたこの神話を に神様より、「後世茅の輪 様々な地域で昔話とし ワ